



2024年2月1日発行  
1947年10月27日  
第3種郵便物認可  
発行所/日本YMCA同盟  
東京都新宿区本塩町 2-11  
THE YMCA 神戸版  
神戸YMCA  
〒650-0001  
神戸市中央区加納町 2-7-11  
Tel 078-241-7201  
Fax 078-241-7479  
www.kobeymca.org  
発行人/井上 真二  
編集/本部事務局  
印刷/南わかばやし印刷

# YMCA News



年間聖句

「平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか。」

ローマの信徒への手紙14章19節より



社会福祉法人 神戸真生塾理事長  
神戸キリスト教青年会監事・会員増強委員  
学校法人 神戸YMCA学園理事・評議員  
うえすぎ とおる  
上杉 徹さん

子育てに悩み、苦しむ保護者はコロナ禍以前から増加傾向でした。特に企業が産休・育休を充実させ、若い子どもが親と共に過ごす時間を持てるようにと進めてきました。そしてコロナ禍においても「ステイホーム」を合言葉に、先進的な企業は「テレワーク」を進め、出社することなく自宅ですることができるようにと良い意味で配慮しました。しかし、家族が共に過ごす時間が増えた結果、何が起きたのか。

2022年度中に児童相談所が対応した児童虐待相談件数は過去最多の219,170件と、3年連続で20万件を越えました。完全少子化と言われている時代においてなぜ、このようなことが起きるのか。また、コロナ禍をきっかけに若年層と女性の自殺が増加しています。「子どもとユース世代の受難の時代。子育てをする女性の受難の時代」が続いています。今の時代、家族と共に過ごす時間が辛い人が、残念ながら増えているようです。

今年度より政府は「子ども家庭庁」を創設して「子どもまんなか」をアピールしています。しかし、家族関係や人間関係が解体されている時代の中で、なかなか「子どもまんなか」とならない状況が続いています。また「児童虐待」「いじめ」「不登校」をはじめとした生き辛い環境の中で、孤独を感じ、孤立している子どももいます。健全な居場所、健全な大人との出会いの場所が失われつつあります。

YMCAは長い歴史の中で、子どもとユース世代に、健全な居場所とモデルとなるユースや大人との出会いの場を提供してきました。さまざまなプログラムに参加することもたちは「自己決定」する経験を通して「子どもの権利」が守られていることを体感しています。子どもたちが自身の身の安全・安心を守られることで、それぞれの賜物に合わせて社会に飛び出して行き、次代を担っていくリーダーとなります。そして、世の中で困っている人たち、小さくされている人たちと手をつなぎ、包み込み、温め、勇気づけることができる人材となります。このような若者が生み出されることが、「児童虐待」「DV」「いじめ」等の今日的な課題解決へのアプローチにつな

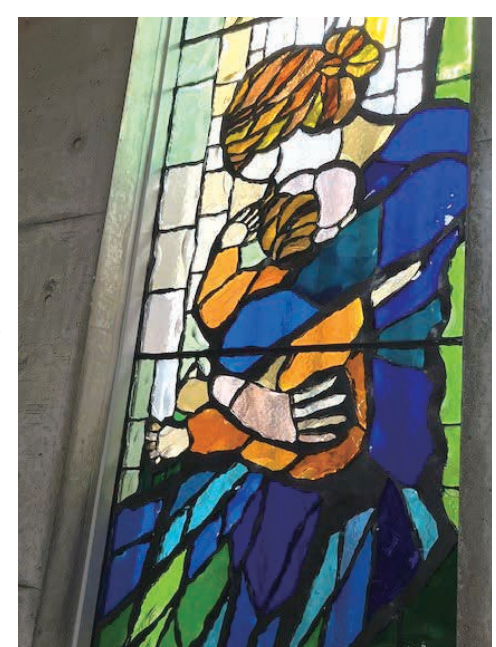
## 子どもとユース世代の未来が輝くように ピンクシャツデーに寄せて

がるのではと考えています。

『だから、わたしたちは落胆しません。』（コリントの信徒への手紙二4章16節）の聖句に背中を押されつつ、ポストコロナの時代を、子どもとユース世代のために共に歩んでいきたいと願います。

神戸真生塾はキリスト教の精神に基づき、福祉サービスを必要とする者が心身ともに健やかに育成されるとともに、社会、経済、文化、宗教その他あらゆる分野の活動に参加する機会を与えられ、年齢や環境、心身の状況に応じたサービスを総合的に提供されるよう支援しています。また、乳児院や児童養護施設、児童家庭支援センター、幼保連携型認定子ども園、自立援助ホーム、小児科を運営しています。寄付や寄贈品、ボランティアとして運営にご参加いただける方も随時募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

こちらから→



「はくくむ」三浦 啓子作 神戸真生塾1Fロビーのステンドグラス  
神戸西ロータリークラブより寄贈

### YMCAピンクシャツデー 2024年2月28日(水)



「ピンクシャツデー」は、2007年にカナダの学生2人から始まった、いじめ反対運動です。  
ある日、ピンク色のポロシャツを着て登校した少年が「ホモセクシャルだ」といじめられました。それを聞いた先輩2人が50枚のピンクシャツを購入し、インターネット上で「明日、一緒に学校でピンク色のシャツを着よう」と呼びかけました。すると翌日、呼びかけに賛同した数百名の生徒がピンク色のシャツやピンク色の小物を身につけて登校。学校中がピンク色に染まり、いじめが自然となくなったそうです。

このエピソードはSNS等で世界中に広まり、今では70カ国以上でいじめに反対する活動が行われています。カナダでこの出来事があったのは2月の最終水曜日でしたので、YMCAでも、2月の最終水曜日はいじめについて考え、いじめられている人と連帯する思いを表す一日としています。差別や偏見、分断のない、誰もが安心して暮らせる社会を創造すること、社会全体でいじめに向き合うことを目指して、ピンクシャツデーに取り組みます。

## 灯台

Light House

No.40

総主事 井上 真二



## 人道支援の港 敦賀

1940年、リトアニア日本領事館の杉原千畝領事代理は、外務省の指示に反して約6千人のユダヤ人に日本通過ビザを発給しました。この「命のビザ」を手にしたポーランド孤児やユダヤ難民はシベリア鉄道でウラジオストク、船で敦賀に到着しました。そして次の目的地のビザが手に入るまで神戸や横浜に滞在し、カナダやアメリカ、上海などへ渡って行った歴史があります。敦賀港が、明治から昭和初期にかけてシベリア鉄道を経由してヨーロッパ各都市と日本を結ぶ国際港としての役割を担ったこと、ほとんど着のみ着のまま日本に逃れてきたユダヤ人に食糧を配り銭湯を開放するなど手厚くもてなした人々がいたことなどの記録は、資料館である「人道の港・敦賀ムゼウム(旧敦賀港駅跡地)」で見ることができます。

神戸では多くの難民が神戸ユダヤ共同体である「神戸ジューコム」で受け入れられ、生活や情報などの支援を受けたとのこと。クリスチャン新聞の2019年新年特別号紙面には「命のビザ・千畝の意志を継いだ人たち～神戸に来たユダヤ難民の足跡を訪ねる」として、ホーリネス教会の牧師らが難民たちへの救援物資の配布等、必要な支援を行ったことや、神戸ジューコムの跡地を再訪したかつての難民がこどもの頃の記憶をたどり「この石垣は確かにあった」と証言していることを掲載しています。2020年11月には、神戸電子専門学校南館(神戸市中央区山本通)の石垣が神戸ユダヤ共同体跡地にあたるとして案内板が設置されました。



## インターナショナル・チャリティーラン開催

チャリティーラン実行委員会担当主事 間 勝也

11月23日(祝・木)に、しあわせの村にて「第25回 神戸YMCAインターナショナル・チャリティーラン2023」を開催しました。昨年の大雨とは打って変わって、11月下旬とは思えない気持ちのいい暖かさの中での開催でした。

今年度も昨年と同様に午前中みの開催で、「1/10マラソン」「1.2kmウォーキング」「1/100マラソン」の3競技を行い、総勢284名の参加がありました。1/10マラソンではゴール直前での大逆転、1.2kmウォーキングではたくさんの方々がクリスマスの衣装、お姫様、なすびなどさまざまな仮装でご参加くださり

大いに盛り上がり、参加者の皆さまの笑顔がたくさん見ることができました。多くのご参加、ご支援、ご協力をいただき心より感謝を申し上げます。

チャリティーランの収益は、全国のYMCAで、心身に障がいのあるこどもたちの支援のために用いさせていただきます。



## 全国YMCAウエルネス担当者研修会

ウエルネスセンター

11月28日(火)、29日(水)の2日間、YMCA 東山荘(静岡県御殿場市)にて、全国YMCAウエルネス担当者研修会が実施されました。日本全国のYMCAでウエルネス(健康教育)事業を担当するスタッフ51名が集い、交わりの時を持ちました。YMCA指導者養成カリキュラムの見直しに取り組んだほか、今の社会の特徴とその背景を捉え、これからの社会と人について語り合いました。

ウエルネス事業は、プログラムを通して、人が「より良く生きる」ことを目指しています。その出発点から、さまざまなプログラムが実施されます。だからこそ、指導者(リーダー)は十分にそれを理解し、こどもたちや成人の方、一人ひとりに合った指導をすることが重要です。基本となることを繰り返し確認し、見直していくことで、YMCAウエルネスの指導者養成を、これからも進めていきます。

今回は全国の指導者を集い、つながる場となりました。そのつながりを広げ、太くすることで、人が「より良く生きる」社会を目指していきたいと思えます。



## 卒業制作模擬挙式

専門学校ホテル学科

12月15日(金)、ホテル学科2年生による卒業制作模擬挙式が執り行われました。本校で開催するのは2019年度以来です。2年間学んだ場所で、集大成となる発表ができました。

チャペルでの挙式、教室でのパーティーの2部構成で、それぞれのプランナーとキャプテンが中心となって模擬挙式を作り上げていきました。今年のテーマは「リゾート旅行」。挙式では昼間の海や空をイメージした青い空間を、パーティーではサンセットをイメージしたオレンジ色の空間を演出していました。普段見慣れている場所が、演出や装飾によりガラッと雰囲気が変わります。学生たちのアイデアに驚かされました。

本番が近づくとつれ、毎日のように放課後に残って準備をしていた2年生。本番ではチームとなった姿があり、何より自分たちが楽しんで進めていた姿が印象的でした。春からはいよいよ社会人です。この達成感を忘れず、今回の経験がそれぞれの場所で生かされることを願っています。



## R E P O R T

## 西宮YMCA保育園

## こどもを真ん中に

日本は世界の中でも顕著に少子化傾向の強い国です。その要因はいろいろ考えられますが、何より、未来に対する希望よりも不安のほうが大きいことが挙げられるのではないかと思います。経済的にも人間関係的にも、特にこの20年間でストレス過多になっているように感じます。

こうした中で、保育園はこどもが育っていく役割の場としてだけでなく、地域がこどもを中心に交わり、成長を共に喜び、こどもを通して新たな生きがいを創っていく役割が求められているのではと感じています。

こどもの成長、日々の変化が多くの方のかかわりに

よって、より大きいものとなるように、そしてその変化を多くの方と分かち合うことができるように。保護者、地域の方々、青少年が保育園を通してつながり、こどもを中心に、互いによくなっていくソーシャルワークのある場になるように。祈りと実践の中で、未来に大きな希望を創ることができるよう、歩んでまいりたいと考えています。



クリスマス降誕劇の様子

## 浜脇留守家庭児童育成センター

## 仲間と過ごすクリスマス

浜脇留守家庭児童育成センターでは、毎年クリスマス会で、こどもたちがハンドベルや漫才、劇、空手など、得意とすること、挑戦してみたいことを発表する場を設けています。10月から何をどのようにするのか話し合いを始め、こどもたちの意見を尊重し、できることを模索しながら準備を進めています。

1年生から3年生のこどもたちが出し物を選んでグループを作るので、仲のいい子もいれば、まったく関わりのなかった子がいる場合もあります。意見の違いや、ケンカにまで発展することも多々あります

が、そのようなやりとりの中で相手を知り、違いを知り、折り合いをつけながら創り上げていきます。「大変だったけど、仲間と一緒に練習したから楽しかった」という声が増えてほしいと思います。

ある日「あと15日寝るとクリスマス会だ」と、ワクワクした顔で会話している瞬間に出会いました。私たちがまだこどもだった頃、誕生日を、お正月を、そしてクリスマスを楽しみにしていたように、クリスマスの行事の中で居場所を感じ、仲間と過ごす楽しさを感じられるように願っています。



ペーパースーツ(紙人形劇)をすることたち

## Ding Dong Ringers ハンドベルコンサート

「第11回 Ding Dong Ringers Handbell Concert」が、12月9日(土)に神戸YMCAチャペルで行われました。約120名の方が来場し、ほぼ満席となりました。指揮者：阿部 望さんのご挨拶から始まり、「ロンド・パッサカリヤ」「長崎の鐘」「一輪の薔薇咲き出で」「生きるものすべて」など、とてもきれいな曲あり、楽しい曲ありの、素敵な演奏でした。

演奏の途中にあった阿部さんのお話、「わたしたちは、あたたかいものやおいしいものを、飲んだり食べたりすることができます。こうして音楽を聴くこともできます。でも、そのようなことが、今できない人たちも世界に

はいます」とありました。平和や健康の尊さを、改めて感じるメッセージでした。心あたたまる、心が豊かになる

音楽を聴き、会場にいる皆さんが、素敵なクリスマスを迎えることができるのではと思いました。



## こくさいのまど

## 台湾・高雄YMCAが来神されました

11月15日(水)から18日(土)にかけて、台湾・高雄YMCAの蔡政甫総主事と職員3名が神戸YMCAを訪問してくださいました。

高雄YMCAは1963年に創立され、神戸YMCAとは1983年にパートナーシップを締結しています。昨年4月には創立60周年およびパートナーシップ40周年を共に祝いすることができました。

高雄YMCAとは以前からスタッフ研修やハンドベルコンサート等で交流を続けてきました。また日本留

学センターからは、毎年のように神戸YMCA学院専門学校に留学生を送り出してくださっています。

蔡さんは昨年4月に総主事に就任され、今回が初めての訪問です。余島野外活動センターや神戸YMCAの各施設を見学されたほか、理事との懇談、ハンドベルクワイヤーとの交流の時間を持たれました。パートナーシップ40周年を記念して、蔡総主事をはじめ高雄YMCAの皆さまと、さらなる交流プログラムの発展を進めてまいります。



ツァイ 蔡総主事(前列右から3番目)と  
高雄YMCA職員(前列右から1・2番目、左から1番目)

## 仮親という子育ての知恵

公益社団法人 家庭養護促進協会事務局長・社会福祉法人 神戸YMCA福祉会理事 **橋本 明さん**

私は半世紀ほど、親と暮らせない子どもたちに里親を求める仕事をしています。

里親を必要とする子どもを神戸新聞の紙面とラジオ関西の番組で紹介する愛の手運動を61年続けており、これまでに2,568人(2023年3月末現在)の子どもたちが里親に迎えられています。

日本でなかなか里親が増えない理由は「血縁を重視する国民だから」と言われます。本当でしょうか。「里親」という言葉は平安時代からあり、里親は文字通り「里の親」、つまり、50世帯から100世帯ほどの家族が暮らす村落共同体を「里」と呼び、その里の親の一人が里親でした。その頃は親と暮らせない子どもたちのための制度や法律、施設などはほとんどなく、生みの親が育てることが困難なときはそれぞれの村の「仮親」(擬制的な親子関係で、帯親、取り上げ親、乳付け親、名付け親、拾い親等々)が子育てを相互に引き受けていたようです。

「7歳までは神の子」と言われるように、7歳まで育てるのは簡単なことではありませんでしたので、幼い子どもはいろんな仮親が子育てを助けていました。親の病気や死、飢饉、事故、災害などで、いつ何時、親が育てることのできない状況が生じるかわかりません。そんなとき、仮親が生みの親に代わって子育てを担いました。里親もその仮親の一人でした。

血縁に関係なく地域のみんなで助け合いながら子どもを育てるのは当然のことで、相互扶助という民俗の知恵

や工夫がなければ生きていけなかったからでしょう。江戸時代には多くの仮親がいて、子育ての大切な役割を担っていました。

戦前まで、この仮親という子育ての知恵はどこでも見られました。戦後、児童福祉法で里親は法律上の制度として規定されました。昭和30年代からの戦後の復興と経済成長で人の移動が激しくなり、村落共同体も変化し、仮親は次第に減少していきました。

今日では、性の多様化や生殖補助医療の広がりなどで、親子や家族の姿も変わりつつあります。私が30年ほど前にアメリカで研修を受けていた頃、男性同士や女性同士のカップルが里親となって養子を育てていることを知って驚きを隠せませんでしたが、今は日本でもLGBTQの人たちが子どもを育てたり、里親になったりするようになりました。家族や親子関係が多様化しても、子育てがしんどい時代になりました。かつての仮親のような、地域の多くの手が子育てを支える知恵と工夫が必要だと思います。

家庭養護促進協会では、寄附・バザーへの献品等、さまざまな支援を募集しています。支援について興味・関心のある方は、ぜひ当協会ホームページをご覧ください。

こちらから→



## キッズプログラム 新年度(2024年度) 会員募集のお知らせ



受付開始日	場所	プログラム
2/9(金)	西神南センター(神戸市西区)	バスケットボール・体操・親子体育
2/9(金)	ウエルネスセンター学園都市(神戸市西区)	水泳・体操・サッカー・ダンスなど
2/9(金)	須磨センター(神戸市須磨区)	バスケットボール・体操
2/10(土)	キャンピングサービス(神戸市西区・中央区・西宮市)	デイキャンプ
2/10(土)	ファミリーウエルネスセンター(神戸市中央区・灘区)	水泳・体操・バスケットボールなど
2/10(土)	西宮ランチ(西宮市)	バスケットボール

詳しくは各ランチ・センターのホームページでご確認ください。

### 神戸YMCA 遺贈制度

神戸YMCAを遺産の受取人に指定し、寄附いただく制度です。神戸YMCAは創立以来、多くの方々の物心両面からのお支えによって先駆的な働きを進めてまいりました。大切な財産を未来に遺し、神戸YMCAが今後も社会に必要とされる活動を展開できるよう、大切に役立ててまいります。

## 神戸YMCAの使命

## 神戸YMCAの願い

私たちは、すべてのいのちが尊ばれ、互いに支え合う平和な社会を創ります。

私たちは、世代を超えた人々が出会い、つながり合う場をつくり、日本YMCA基本原則に基づき豊かな未来を創造する責任ある人を育てます。  
(神戸YMCA中期計画VISION2030)

## ワイズコーナー

### 神戸学園都市ワイズメンズクラブ

六甲部EMC主査 **杉本 隆人さん**  
(神戸学園都市ワイズメンズクラブ)

神戸学園都市ワイズメンズクラブは、2024年1月に設立30周年を迎えました。チャーターメンバーが私ともう一人だけとなり、30年の時の流れを感じる節目となりました。

我々は、神戸学園都市を拠点に、地域に根ざした活動を行ってききましたが、YMCAの変革と共に、活動も変化してきました。当初は日本語学科があり、毎年、留学生を囲んでうどんすき焼きパーティーを開催したり、学生リーダーたちと共にイベントに参加したりと交流を深めて参りました。現在まで継続しているのが、地域の音楽、ダンスなどのグループと共に開催する公開例会です。コロナ禍での3年余りの自粛から解放されて、演奏会や公演を学園都市YMCA内で再開しています。

昨年の9月例会で実施した邦楽の演奏会では、地域の方々だけでなく、紛争中のロシア、ウクライナの方が共に仲良く鑑賞されており、その光景には、とても感動しました。これからYMCAで、どのように活動していけばよいのか、大きな指針をいただいた気がします。「初心忘るべからず」です。



## 感謝 寄附・募金

(敬称略、順不同)(前号掲載以降～12/12現在)

### 寄附

徳永 憲枝、余島キャンポOBOG会

### チャリティーラン

山本 常雄、山本 容子、井上 真二、大野 勉、大野 智恵、郡 美恵子、水野 雄二、北島 伸三、松田 道子、田代 雅彦、尾上 尚司、尾上 美絵、進藤 啓介、井出 浩、鶴丹谷 剛、山本 洋子、幸田 兵衛、山根 泉、押部 望美、尾崎 美千代、河合 純子、齊藤 靖、佃 治子、間 勝也、青柳 美知子、石田 由美子、喜多 邦子、小林 康男、武田 寿子、多胡 葉子、福田 宏子、福家 清美、若林 成幸、芦屋ワイズメンズクラブ、西宮ワイズメンズクラブ、神戸ポートワイズメンズクラブ

### 国際協力募金

谷 雅博、神野 敬子、大谷 真理、丹羽 和子、福田 陽子、松田 道子、井上 真二、三島 浩司、有限会社井上ビル、ブランシエール神戸北野、社会福祉法人頌栄会認定子ども園頌栄保育園、余島リーダー会、三宮会館秋まつり、西宮YMCA子どもカーニバル、神戸ポートワイズメンズクラブ

この他にも、多数の寄附・募金をいただいております。感謝をもってご報告します。

ファミリーウエルネスセンター  
ランゲージセンター  
専門学校  
西宮YMCA  
余島野外活動センター  
キャンピングサービスセンター  
国際・奉仕センター  
ウエルネスセンター学園都市  
西神戸YMCA  
神戸YMCA高等学院  
YMCAおひさま  
西神南YMCA

☎078(241)7202  
☎078(241)7204  
☎078(241)7203  
☎0798(35)5987  
☎0879(62)2241  
☎078(241)7216  
☎078(241)7204  
☎078(793)7401  
☎078(793)7402  
☎078(793)7435  
☎078(793)9077  
☎078(993)1560

須磨YMCA  
YMCA保育園  
西宮YMCA保育園  
西神戸YMCA保育園  
神戸学園都市YMCA子ども園  
神戸YMCAちとせ幼稚園  
YMCAちとせ保育ルーム  
西神戸YMCA幼稚園  
西宮つとがわYMCA保育園  
あかし子ども広場  
学園都市YMCA保育ルーム  
ユースプラザKOBE・EAST  
神戸市立太山寺児童館

☎078(734)0183  
☎078(794)3901  
☎0798(35)5992  
☎078(792)1011  
☎078(791)2955  
☎078(732)3542  
☎078(786)3821  
☎078(997)7705  
☎0798(26)1016  
☎078(918)6355  
☎078(794)3045  
☎078(891)8222  
☎078(794)4790

